

民間教育特別功労賞



有限会社碓塾 創業者  
前代表取締役  
公益社団法人全国学習塾協会  
前副会長

碓 優 先生

民間教育最高功労賞



eisu group CEO  
EISU CLUB 主宰

山本千秋 先生

民間教育最高功労賞



株式会社エムシーエス  
生涯学習センター 代表取締役  
学校法人龍澤学園 理事長

龍澤 正美 先生

民間教育最高功労賞



京葉学舎 塾長  
塾教育研究会 (JKK) 代表

皆倉 宣之 先生



碓優先生の奥様である碓優子様

●授賞理由●  
民間教育界における数学教育の発展に寄与するとともに、民間教育団体を通じて後進の育成に寄与した功績。  
●略歴●  
1943年青森県生まれ。知人

●授賞理由●  
学習塾用教育コンテンツの提供サービスおよび塾関係者の経営研究会を通じて全国の民間教育の発展に寄与した功績。  
●略歴●  
1941年三重県生まれ。64年、早稲田大学卒。65年、三重県鈴鹿市に「鈴鹿英数学学院」を設立。84年に法人化。86年、学習塾専用の教育コンテンツ製作販売の「株（株）えいすう総研」を、89年、「株（株）えいすうメディア」を設立。90年、全国の学習塾の健全な発展を願い「株（株）EISU」を設立し、独自の経営開発クラブ「EISU CLUB」を主宰。以上4法人から成るeisu groupを率いて創業



●授賞理由●  
岩手県を中心とする東北地方の塾教育・民間教育・学校教育の発展に寄与した功績。  
●略歴●  
1941年4月岩手県生まれ。

●授賞理由●  
千葉県を中心とする首都圏の民間教育・塾教育の発展に寄与するとともに、民間教育団体の発展に寄与した功績。  
●略歴●  
1939年7月鹿児島県生まれ。大学卒業後、東京都職員として12年在職。公教育現場の諸問題を痛感して私教育の重要性を再認識し76年、千葉県千葉市に「京葉学舎」を設立。84年、中曽根臨教審への提言を目的とした「塾教育研究会 (JKK)」の立ち上げに参加。87年「千葉学習塾協同組合 (JAC)」の創設に参加、理事に就任。現在、公共図書館の質的向上を目指す母親を中心とした「としよかんふれ

の学習塾を手伝ったことがきっかけで74年、群馬県太田市の自宅で碓塾を開業。以後、数学指導のエキスパートとして、「碓の数学」と題する動画が全国に出回るほど活躍。塾内外の生徒からの支持はもとより、評判を聞きつけて各地から教えを乞いに訪れた塾講師も少なくなかった。2005年、社団法人全国学習塾協会の理事、副会長に就任。16年11月没。享年73歳。

受賞のご感想

このたびは日本民間教育大賞特別功労賞をいただきまして、まことにありがとうございます。今こ

以来52年、「在野精神／学の独立」を旨に現在に至る。  
正直なところ、まことに分不相  
受賞のご感想  
皆倉先生と同じように、なんで私がこのような賞をいただけるのかわからず不思議な気持ちでいっぱいです。ただ、受賞の条件として確かに年



eisu group COO 伊藤奈緒様 (左) と代表室 岩倉淳様 (右)

のように登壇しておりますと、心臓が破裂しそうなくらい緊張しております。  
40年以上前に青森から群馬県太田市に移住し、主人はそこで塾を開いて、ずっと数学を教えておりました。昨年、約半年の入院生活の末、11月23日に帰らぬ人となりました。私は塾には全く関わっておりませんが、主人は北海道から沖縄まで飛び回っていて、人づくりや組織づくりに本当に貢献してまいりました。  
このたびはこのような素晴らしい賞をいただき、また、皆さまから温かい言葉をかけていただき、本当に感謝しております。ありがとうございました。

早稲田大学卒業後、65年、岩手県の「学校法人龍澤学園龍澤高等学校 (現盛岡中央高等学校) 教諭。龍澤予備校 (現専修学校盛岡中央ゼミナール) 講師。学校法人事務局を経て94年、理事長に就任。98年、盛岡中央ゼミナールから分離独立させた「株 (株) MCS生涯学習センター (M進)」の代表取締役社長を兼務。塾、予備校、高校、専門学校、幼稚園、保育園を擁する龍澤学園グループの総帥。  
受賞のご感想  
皆倉先生と同じように、なんで私がこのような賞をいただけるのかわからず不思議な気持ちでいっぱいです。ただ、受賞の条件として確かに年



皆倉宣之先生と奥様の恵子様

間教育大賞に？」という思いでいっぱいです。皆さまのご協力を得て塾教育に尽力してまいりましたが、今後も民間教育の発展のために頑張っていきたいと存じます。  
社会の変化に伴い、教育改革もかなり進んできています。特に若い塾人の方々は、その変化の流れを掴み、それに対応していただきたいと思えます。あとから流れを追いかけたいのではなく、流れの先を見つけていくことです。大変な努力を必要としますが、頑張っていたいただきたいと思えます。  
なぜ塾が存在しているかという点、教育の多様化に対応できるからです。それが塾の存在意義だと私は思っています。決して画一的ではなく、塾が子どもたちや保護者



「人生とは、切符を買って軌道の上を走る車に乗る人にはわからないものである」という言葉も大好きです。たまたま塾の世界に手を染めて、夢中で取り組んでいるうちに52年が経ちました。偶然が必然に変わったのです。あとに続く方々にも大いに期待しておりますので、頑張っていたきたいと思います。今日はありがとうございました。



専務取締役 芳賀司様 (左) と教育顧問 後藤宏様 (右)



のニーズに応じた独自の塾づくりを行えば、いくらICT化やAI化が進んでも、塾は生きのびていくことができると思います。  
今日はこのような素晴らしい賞をいただき、本当にありがとうございます。